

後輩へのメッセージⅣ

藤井ゼミのみなさんへ

田中 敦子

4年の田中敦子です。最後の最後まで授業に出ていたので、何人かの人とはよく顔を合わせていましたね。こんなダメ人間の私ですが、就職活動を15ヶ月間行い、卒業間近の2月にやっと、どうしても働きたかった映像業界の仕事に就くことが出来たので、参考までに読んで下さい。完全に未経験の分野への就職を目指している人には、少し参考になるかもしれません。

あくまで私はですが、就活がいくら長引いてつらくても、卒業した後に、自分が本当に力を注いで働ける仕事に就けるまで妥協はしない！！と決めていました。就活の初めは色々な業種を見てみましたが、中盤からは業界を絞って、行きたいところしか受けませんでした。完全に無謀な挑戦です。内定をいくつも取った友人は「面接は相手が望んでいそうなことを答えるのが1番！」と言っていました。偽った自分が入っても意味なし！！とバカ正直なことしか言いませんでした。(←あまり参考にしない方がいいかも)

就活をしばらく続けると、その精神的・体力的な苦しさから解放されたくなってくると思います。特に周囲がいくつか内定を取り出した5月以降は、焦りも出でくると思います。夏休み以降なんて、「就活どう？」地獄です。500回は聞かれます。

ここで大切なのは、自分は何のために仕事をするのか？ということと、卒業して実際に働いてからのことをよく考えることだと思います。その為には、周囲で実際に働いている年上の友人などがいれば、仕事の話聞いておくのが良いかもしれません。

私が就活を通じて痛感したのは、自分が動けば開けてくる世界もあるということです。もしその企業が求人をしていなければ自ら応募をする、新卒採用が無く中途採用しかなければダメ元で応募してみる、など積極的に動くことで意外に道は開けてきます。私は夏前にちょっとアシスタント的なことをし、夏休みは専門学校のワークショップに行き、映像業界で働く決意を固めました。

長くなりましたが、人生は長いようで短いです。どんな仕事をするか＝どんな生き方をするかだと思います。

沢山の仲間と沢山お酒を飲んで悔いのない人生を送ってください。

就職活動について

浦井絵里佳

就活で大事なことは自分自身としっかりと向き合うこと、その会社に入りたい！という熱意の2つだと思います。私にとって就職活動とは自分探しの旅でした。就活を始めた当初は自分が何をやりたいのかも定まっておらず、自分の長所や短所すらわからない状態でやみくもに様々な業種のエントリーシート提出する日々を送っていました。あいまいな気持ちで書くエントリーシートで会社に熱意も伝わらずもなく、最初はエントリーシート落ち→面接にたどり着くことができないという状態が続きました。

この状態をなんとかするにはやっぱり自分のやりたいことをしっかり見つめなおさなきゃいけない、と思い合同説明会に積極的に参加することにしました。合同説明会をなめちやいけません。あまり意味が無いよという人も周りにはいましたが、やりたいことが明確でない人には、様々な業界・業種を知る

良い機会になります。私もその中で当初はまったく考えていなかった業界に興味を持ち、やってみたい！と思える仕事に出会うことができました。

やりたいコトが明確になると、モチベーションもまったく変わります。ES や面接でも自然に熱が入りその熱意が相手に伝わるのだと思います。また一方で、“今までの自分”をゆっくり振り返ってみることで自分の性格を知ることができ、「私の長所って何？」と親や友人に聞きまわること（まじめな答えはぜんぜん返ってきませんでしたが。。）新しい発見もすることができました。最初からやりたいことを明確に把握している人や自己分析が完璧な人はそんなに多くないと思いますが、自分なりの就職活動をして試行錯誤するうちにきっと何かみえてくると思います。これから就職活動をする3年生は大変だと思いますが、最後まで笑顔を忘れずに頑張ってください。